社会科通信	よもやま	歴史

〇越後の有名なものといえば・・・

「越後土産初編」（「産物見立取組」より、新潟県立図書館蔵）

相撲の番付に見立てられた近世越後の特産物

越後各地の産物百十二品を相撲の番付に見立て、東西の大関、関脇、小結、前頭などに格付けしています。これによって当時の特産物の様子が分かります。

まず、東西の大関には「妻有あいさひ縮」「上田白地縮」が、関脇には「栃尾紬」「五泉せいごう」が並んでいます。東西の最高位はともに魚沼産の縮布になっています。紬やせいごうはどちらも絹織物ですから、上位四位はすべて織物がしめ、近世越後の特産物の特徴が見えてきます。

青芋・白布生産から縮布生産へ

麻は、古代・中世を通じて、庶民の衣料品として広く生産され使用されました。近世に木綿が普及するまで、糸や布といえば一般的には麻糸・麻布（白布）を意味しました。麻布の原料となるのが、青芋と呼ばれる、からむし（苧麻）からとった繊維です。古代・中世を通じて、青芋や白布は、越後を代表する特産物でした。

麻布（白布）が撚りなしの青芋を用い平織りであったのに対して、縮布は改良を加え、緯糸に強く撚りをかけしわを出し、整織に成功したのです。これによって、越後縮布は夏向きの高級麻織物として、三都をはじめ全国にその名をはせるようになりました。

『新潟県の歴史』新潟日報事業社

①越後の特産物の大関は何か？ ＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿

②越後の特産物の関脇は何か？ ＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿

③近世越後の特産物上位４位はすべてどんな製品か？ ＿＿＿＿＿＿

④古代・中世の特産物は何か？ ＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿

⑤麻はどんな身分の衣料品だったか。 ＿＿＿＿＿＿

⑥越後の縮布に向いている季節はいつか。 ＿＿＿＿＿＿

⑦越後の縮布の評価は。 ＿＿＿＿＿＿

⑧三都とはどこか。 ＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿・＿＿＿＿＿＿

（　　）班名前

江戸時代中期に何がおきたのか？
「作り手」の立場から考えよう（２）

○調べる視点

・江戸時代に広まった農業のあたらしい道具を調べよう。

・あたらしい道具ができると農業する時間や収穫量はどうなるか。

・あたらしい道具を導入するために必要なものは何か。

・小千谷はどことライバル関係になったか。

・小千谷縮の技術はどこの誰がどこから伝えたか。

・小千谷の百姓が小千谷縮を作らなければならなくなった理由を考えよう。

だから越後の百姓は，小千谷縮をつくるようになった！

（　　）班名前

江戸時代中期に何がおきたのか？
「売り手」の立場から考えよう（２）

○調べる視点

・江戸時代に整備された流通経路（海と陸）を調べよう。

・流通経路が整備されると，売り手にとってどんな良い面があるか。

・江戸時代の貨幣について調べよう。

・全国の貨幣が統一されると，売り手にとってどんな良い面があるか。

・流通と貨幣が整備されると，小千谷縮が全国に売りやすくなる理由をまとめよう。

だから小千谷縮は全国で売られるようになった！

（　　）班名前

江戸時代中期に何がおきたのか？
「買い手」の立場から考えよう（２）

○調べる視点

・大名の収入が増えた理由を「新田」と「人口」から調べよう。

・商人が裕福になった理由を「株仲間」から調べよう。

・武士や商人が裕福になった理由を戦国時代と江戸時代を比較して考えよう。

・武士が小千谷縮を着るようになった理由を調べよう。

だから高級な小千谷縮を買えるようになった！

（　　）班名前

江戸時代中期に何がおきたのか？ ・他班の発表を聞いてそれぞれの立場の要点をまとめよう。		
「作り手	「売り手」	「買い手」
○江戸時代に小千谷縮みが作られるようになった理由をまとめよう。		
○今日の授業の感想		